

平成 23 年 10 月 28 日

平成 23 年度も「那覇港物流ビジネスモデル導入事業」を実施します ～沖縄を発着する貨物を増やすための社会実験を行います～

那覇港管理組合では、昨年度に引き続き「那覇港物流ビジネスモデル導入事業」を実施します。本事業は、那覇港を活用した「物流ビジネスモデル」(＝「沖縄を発着する貨物の掘り起こし」と「海外に運ぶ仕組みづくり」)を提案し、社会実験によりその効果を検証した上で、育成していくことを目的としています。「物流ビジネスモデル」の導入により、沖縄を発着する貨物が増大することともに、那覇港を中心とした国際物流拠点が形成されることを期待しています。

今年度は、昨年度にトライアルを実施した「物流ビジネスモデル」について社会実験を実施するとともに、その他に提案された「物流ビジネスモデル」についてもトライアルの実施に向けた調整を進めていきます。今年度の社会実験等は 11 月末から来年 3 月頃まで実施する予定です。なお、実施に際しては、社会実験等に参加する荷主の公募を行う予定です。

このうち、小口貨物の混載輸出モデルについては、昨年度実施した香港向けに加えて、台湾向け等、他の方面についても実施する予定です。ご協力いただく参加荷主に対して、海上運賃相当の支援を行う予定です。

詳細については、公募時にあらためてお知らせします。連絡先を下に示しますので、ご不明な点がありましたらお問い合わせください。

< 参考：昨年度調査により提案された「物流ビジネスモデル」の例 >

- アジア各国への小口貨物の混載輸出モデル (昨年度トライアルを実施)
- 中古車の直接輸出モデル (昨年度トライアルを実施)
- リサイクル資源等の直接輸出モデル
- 臨港型産業(流通加工、中継、配送、保管等)への輸送支援モデル など

添付資料:

別紙－1 那覇港物流ビジネスモデル導入事業の概要

お問い合わせ先:

那覇港管理組合

企画建設部 企画室 担当:鶴田

住所 〒900-0035

那覇市通堂町 2-1

電話 098-868-4544

FAX 098-868-4233

那覇港物流ビジネスモデル導入事業の概要

事業の背景等

- 「沖縄振興計画」（平成14年7月）により、那覇港は、国際流通港湾としての機能の充実強化、国際的なロジスティクスセンター等の立地による国際物流拠点の形成をめざすことと設定。
- 那覇公共国際コンテナターミナルを整備し、日本初となる純民間による運営を実施。
- ターミナル背後でPFIによるロジスティックセンター事業を展開。
- 新たな航路の就航、貨物の獲得に向けた施策が必要とされている。



課題の解決に向けて

- 「沖縄の国際物流戦略に関する提言」（平成20年2月）において、「海外-那覇-本土」輸送の実現に向けて、海外-那覇間の航路を就航させる社会実験を行うこととされる。
- しかし、沖縄発着の外貨貨物の絶対量が少ないため、海外-那覇の航路を就航させる社会実験の成功には、発着貨物の増大策が必要。



- 那覇港を活用することにより新たな付加価値を生み出す『物流ビジネスモデル』を提案し、社会実験により検証した上で育成。

期待される効果

- 効果的なポートセールス等、誘致活動への反映により期待される成果
 - 取扱貨物量の増大、新たな産業の立地、新たな航路の誘致 等
- 物流システムの効率化への反映により期待される成果
 - コンテナターミナル、ロジスティクスセンター等の運営の効率化への反映、港湾サービス機能の効率化への反映 等

那覇港を活用した物流ビジネスモデルのイメージ

「沖縄を発着する貨物の掘り起こし」と「海外に運ぶしくみ作り」

- **輸出入貨物の増大：「海外⇄本土⇄那覇」を「海外⇄那覇」に**
 - 例：農産物、花卉等、県産品の直接輸出。アパレル、雑貨等の直接輸入
 - 小口の貨物を1つにまとめることにより、直接輸出入を可能に
- **輸出貨物の増大：「那覇→本土（→海外）」を「那覇→海外」に**
 - 例：中古車、スクラップ、古紙等、新しい貨物を発掘し、直接輸出
 - 片荷の解消による物流コストの削減を期待
- **臨港型産業の導入：那覇を経由する貨物の誘致 等**
 - 電子部品等のストックポイントや流通加工の場として誘致

実現性の高いモデルに対して社会実験を実施

